

## 第2回 CCC 社会学グループ運営委員会議事録

I. 日時：平成 22 年 9 月 24 日（金）午前 10 時から午後 12 時まで

II. 場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者：奥村委員、土屋委員、津田委員

（事務局）井端事務局長、森下主幹、渡邊職員

IV. 議事概要

1. 検討内容

（事務局より参考資料の説明）

読売新聞 2010.9.19 記事「デジタル時代の教育を考える」

- \* 教育はデジタルかアナログかの二者択一ではない
  - \* 考えることに対する学生の「胆力」が落ちている
  - \* 本物と偽物を見分ける力を育てることが重要
- これらを踏まえた授業モデルの開発が検討課題

（委員より ICT 活用案の説明：資料 3.1 参照）

授業事例（「基礎演習」の紹介）

- \* いわゆる「入口」（導入）の授業で 1 クラス 15～16 名（複数クラス設置する）
- \* 全クラス共通のテーマ（＝ガイド：これが重要なポイント）を設定して進める
- \* 問題の発見とその解決を目指す「Project Based Learning」
- \* ディスカッション内容についてネットにアップする（ICT で教室と教室をつなぐ）
- \* 他のクラスの成果（途中経過含む）を評価する
- \* 身近な問題からアプローチできるが、運営の力量が問われる
- \* 現場の体験を形にし、その情報を共有して、メディア情報とぶつける

（委員より ICT 活用案の説明：資料 3.2 参照）

- \* 授業のねらいは①議論の深化②社会学概念の可視化③調査手法の習得
- \* 授業計画としては、①映像ドキュメンタリーを活用した導入②二次データの活用③既存のデータによる調査研究を擬似的体験（体験シミュレーションシステムを構築する）
- \* ネット上のコミュニケーション（フォーラム、メーリングリスト、mixi、twitteru など）は利用率が問題（長続きしない）→ネット上の議論においてもコーディネーターが必要（「あらし」をスルーするといったスキルも必要）
- \* 図表による可視化は、概念の矮小化と学習意欲低下を招かないよう留意する必要

（委員より ICT 活用案の説明）

- \* 到達目標をシークエンスで考えると、「3→2→1」と「3→4→5」という2つの流れが想定される
- \* 当然、運営上のサポートシステムが要請されるので、到達目標3「産業化・都市化・情報化といった歴史的な枠組み」に関わる基本的文献をシリーズ化して統一的にレファレンス化（アメリカコロラド州アスペンの Great Books セミナー参照）
- \* サポートシステムとして TA も組み入れるが、TA 自体も育成対象として社会学学士力の外延に位置づけられる
- \* 既に行われているが、twitter による読書会もオプションとして考えられる

(各委員によるコメント)

- \* 「フォーラム」運用の問題として、積極的な学生と参加意識の希薄な学生の差をどう埋めるか？
- \* 教員が利用できるコンテンツをどのように整備するか？
- \* コンテンツのデジタル化による弊害をどのように乗り越えるか？
- \* 日本で「リーダーズ」（要約シリーズ）を見かけないのは「文化の差異」ではないのか？
- \* フォーラムへのアクセスを「現実的に」コントロールできるか？
- \* マッピング（基礎知識のレファレンス）をどのように行うか？
- \* 現場とどうつなぐか？

(事務局からのコメント)

- \* 単なる知識「提示型」ではなく、気づきへ向けた学びの「確認」ができるものが求められている
- \* 社会現象の把握を組み込んだ「学びのプロセス」の形が求められている

(意見交換)

- \* 資料 3.1 の案は TA に負担がかかる
- \* 学びの「ふりかえり」のためには、等質な学生のみならず社会人も参加させると有効ではないか → 「教養教育」的視点も入ったしかけとなる
- \* 「発表すること」は必ずしも目的ではない
- \* 資料や文献の読み込みをネットでどのようにフォローできるか？
- \* 教員と TA によるフィードバック（もしくは外部による評価）が学生の励みとなる
- \* 4年間を通じたモデルづくりも想定すべき
- \* グループ学習の前あるいは動機づけの前の授業として、理系分野のように。基礎力をつけるための学習も求められる
- \* コンテンツおよび経験則をまとめたアーカイブを「教育的クラウド」として学外に

置いたらどうか。

(結論)

- ① 15回の中で授業デザインを考える
- ② そのうち1回の中で授業シナリオを考える
- ③ 到達目標・到達度との関連性を明らかにする

## 2. 次回までの宿題

本日の議論を踏まえて、授業モデルを提案する。

- ① 資料 3.1 をベースに到達目標 1 について、到達度 2・3 を想定してモデルをつくる
- ② 資料 3.2 をベースに到達目標 3 についてモデルをつくる
- ③ TA 用のモデルつくる

## V. 次回の開催日程

日時：平成 22 年 11 月 19 日（金） 午前 10 時から正午まで

場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

以 上